

2026 年 9 月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	37,451,983	30,664,165	122.1%
国内旅行	5,225,508	5,390,536	96.9%
訪日旅行	1,467,177	1,606,834	91.3%
合 計	44,144,669	37,661,535	117.2%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	126.8%
オセアニア・南太平洋	163.4%
ハワイ・ミクロネシア	96.1%
欧州・中近東・アフリカ	124.2%
北米・中南米	137.3%

商品別	前年同月比
手配旅行	124.0%
企画旅行	125.3%

チャネル別	前年同月比
店舗	132.0%
オンライン	122.8%
法人	110.0%

■海外旅行

商品ラインナップの拡充と競争力強化に向け、マレーシア航空とは新規福岡路線の販売促進やグローバルネットワークを活かした運賃・座席供給に関する連携協定を締結しました。また、フィジー政府観光局とも持続可能な観光推進に関する協定を結んでおります。さらに、秋から年末年始の需要喚起として、「秋の旅フェスティバル」を開催したほか、チャーター便を利用した年越しグアムツアーの販売など集客強化に努めました。取扱高においては、11 年ぶりとなるシルバーウィークの効果が大きく寄与し、長距離路線を中心に好調に推移しました。方面別では、オセアニア・南太平洋が前年同月比 163.4%と大きく伸長したほか、北米・中南米（同 137.3%）、アジア（同 126.8%）など多くの方面で前年を上回りました。なお、台風等によるフライト欠航により、一部の路線（北米・グアム等）においてやむを得ないキャンセルが発生したものの、別航空会社を利用した代替手配の提案や、近距離方面における旅行日程の短縮など、柔軟な対応により影響を最小限に留め、全体としては底堅い旅行需要が取扱高を力強く牽引しました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、374 億 5,198 万円前年同月比 122.1%となりました。

■国内旅行

9 月中旬より「九州ふっこう割」の販売を開始し、北海道方面では秋の紅葉や周遊需要の取り込み、ならびに「さっぽろ雪まつり」等の早期予約喚起を図りました。また、秋の行楽シーズンに向けた航空会社別キャンペーンを実施し、10～11 月の間際出発の需要獲得にも注力しました。取扱高においては、同施策が牽引した九州方面が前年同月比 107.7%と順調な回復をみせました。一方、シルバーウィーク期間の関東への台風接近報道による予約機会の逸失や、航空便の欠航に伴うキャンセル増により、特に高単価な沖縄方面が落ち込みました。加えて、関西方面における前年の大型イベントの反動減も響き、全体として前年を下回る結果となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 96.9%の 52 億 2,550 万円となりました。

■訪日旅行

秋の行楽シーズンを迎え、取扱高が先月より大幅に増加する中、前年の欧州から関西地域への大型イベント受客案件の反動減などにより、HIS 単体では前年同月比 86.8%となりました。一方、北米・豪州からの受客においては、教育旅行など高付加価値な大型団体の受入や取扱人数の増加が寄与し、単月過去最高の取扱高を更新しました。ジャパンホリデートラベルの FIT 部門では、秋の観光需要を捉えた日帰りバスツアーや花火大会などの季節商品が取扱高を牽引しました。また、団体部門においても台湾からの受客増や中国インセンティブ案件が大きく伸長した結果、同社全体で同 108.5%と好調な推移となりました。

以上の結果、訪日旅行事業全体の取扱高は、前年同月比 91.3 %の 14 億 6,717 万円となりました。

2026 年 9 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比117.2%の 441 億 4,466 万円となりました。

2026 年 9 月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	22,349,130	19,808,717	112.8%
アウトバウンド	11,240,550	11,048,829	101.7%
合 計	33,589,680	30,857,546	108.9%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

中東情勢による影響や燃油サーチャージの高止まり等により各方面の動向が注視されるなか、ヨーロッパ方面全体では前年実績を上回りました。ドイツでは、視察グループ案件に加えて、大型市民マラソンやビールの祭典といったイベント需要を獲得して前年同月比 108.0% となったほか、フランスでも街歩きやクルーズ商品が人気を集め、同 116.5% に達しました。カナダでは、欧州（ドイツやオランダ等）からの受客増や渡航需要の増加を背景にグループ・個人旅行（FIT）ともに需要を伸ばし、同 135.3% と好調に推移しました。また、ベトナムではチャーター便の供給拡大や体験型オプションツアーの販売が好調に推移し、同 155.1% と大幅な伸びを示しました。

一方、中近東・アフリカ方面においては、情勢の緊迫化に伴う一部ツアー不催行等の影響により同 89.8% と前年を下回ったものの、前月（83.6%）と比べ着実な回復傾向がみられました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 112.8% の 223 億 4,913 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

海外アウトバウンド取扱高の 8 割以上を占めるカナダにおいて、欧州方面への渡航需要が高まったことで前年同月比 102.5% と堅調に推移し、前年を下回った前月から一転して、プラスへと反転しました。また、イギリスでは、東京や京都などのゴールデンルートを巡る定番の日本周遊観光に加え、大型イベントや医療分野などの専門展示会への参加、視察を目的とした高付加価値なオーダーメイドツアーの需要を捉え、同 124.9% と大幅に伸長しました。インドネシアにおいては、近隣諸国や米国本土向けの留学・就労需要の拡大や団体旅行の受注が取引高貢献に寄与し、同 107.1% と堅調に推移しました。さらにメキシコにおいても、国内行きの家族旅行や企業のインセンティブ・社員旅行といった団体需要を確実に取り込み、同 103.6% と前年実績を上回りました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 101.7% の 112 億 4,055 万円となりました。

2026 年 9 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 108.9% の 335 億 8,968 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R 室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177